

コアウィーブ(CRWW)

【セクター】 情報技術

信買

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

2017年に米国ニュージャージー州で設立されたAI特化型クラウドインフラ企業です。当初は暗号通貨マイニング事業を行っていましたが、2019年にGPUを活用したクラウドコンピューティングに転換。NVIDIAとの戦略的パートナーシップを活かし、AI・機械学習向け高性能GPUクラウドサービスを提供します。2025年3月にNASDAQ上場。主な顧客はMicrosoftやOpenAIで、急速な成長と高い将来性が注目されています。

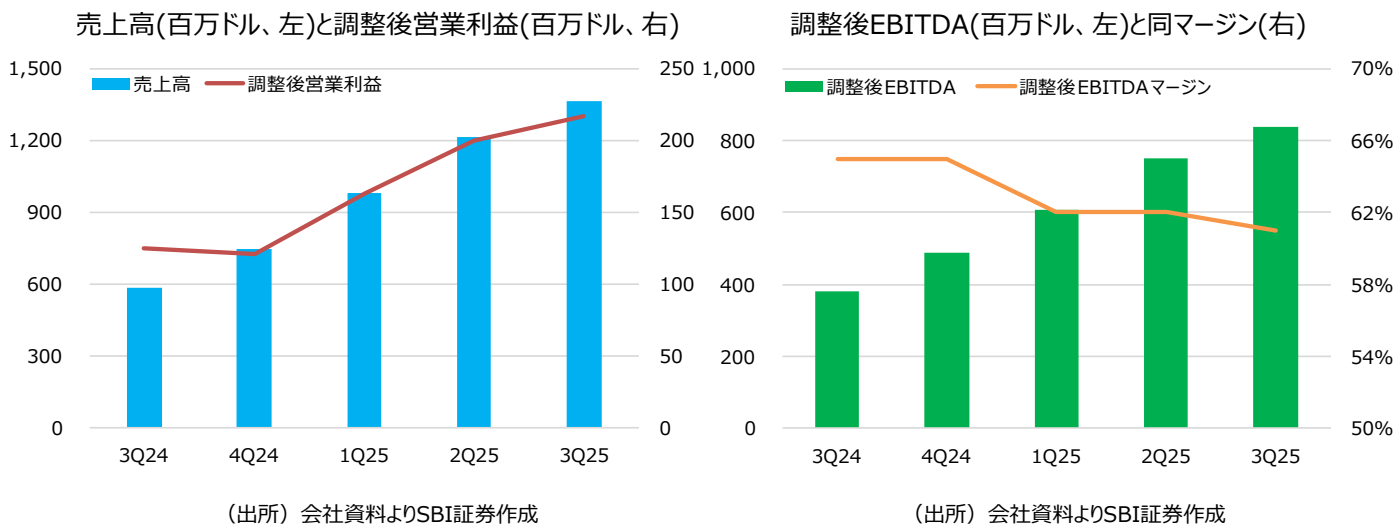
【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、売上高、純利益、EPSは調整後ベース）

決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
23.12期	229	-594	-61.80	0.0	-	-	-2.7
24.12期	1,915	-863	-79.27	0.0	-	-	7.3
25.12期（予）	5,258	-662	-1.54	0.0	6.8	-30.0	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）会社資料、BloombergのデータよりSBI証券作成

【主要指標】



【会社の見方】

11月10日に発表された2025年第3四半期(7-9月)業績は、売上高が前年同期比2.3倍の13.6億ドル(市場予想12.9億ドル)、1株損益が-0.22ドル(同-0.57ドル)と、前年同期の-1.82ドルから赤字が大幅に縮小しました。一方、営業費用の急増により、営業利益率が4%(同6.52%)と、前年同期の20%から大きく低下しました。第3四半期にメタ・プラットフォームズと142億ドル規模の契約を、オープンAIと65億ドルの追加契約を、また社名非公表の「ハイパースケーラー(大規模クラウド事業者)」と新規契約を結びました。9月末の受注残が同3.7倍の556億ドルに急増しました。

【見通し・注目点】

会社側は2025年通期の業績見通しについて、売上高を従来の51.5億～53.5億ドルから50.5億～51.5億ドルへ下方修正しました。マイケル・イントレーターCEOは「第三者のデータセンター開発業者の進捗遅延が一時的に影響しており、第4四半期決算にはこの問題が反映されるものの、影響を受けた顧客と納期調整で合意しており、当初契約の総額は維持できる」と説明しました。一方、旺盛な需要を背景に、同社はデータセンターの拡張と最新設備の導入を急いでおり、マイクロソフトへの依存度を下げるために、顧客基盤の多様化も進めています。

本レポートに関するご注意事項

- ・ご紹介する個別銘柄及び各情報は、投資の勧誘や個別銘柄の売買を推奨するものではありません。
- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりつく株365)、店頭CFD取引(SBI CFD)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。

株式会社SBI証券 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号、商品先物取引業者
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本STO協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人日本暗号資産等取引業協会